

# 防災士の単独講演を 日常業務化できるように

## 事業企画書

2024年5月13日  
日本防災士会京都府支部  
防災士 大川 昂征



**日本防災士会**  
**京都府支部**

## 企画の経緯

### 支部設立から10年のあゆみ

日本防災士会京都府支部が設立されて、まもなく10年が経過する。全国の他都道府県に遅ればせながら設置された京都府支部であったが、現在となっては支部会員数が約70人にのぼり、昨年度には全国初の地方自治体の具申による、日本防災士機構からの防災士功労賞を受賞するにまで至った。設立当初はとにかく実績がなく、支部長はじめ幹部が府内各地を駆け回り、仕事を集め、着実に実績を積んできた。

### “組織”としての課題

設立から10年。いばらの道を力強く進んできた京都府支部であるが、“組織”としての課題も浮き彫りになってきたように感じる。それは、支部の一部会員や幹部だけが先々へと進み、組織としてのマネジメントが十分とは言えないという点である。設立当初は、とにかく実績を集めるために「怒涛の幹部」が必要であった側面が強かっただろう。しかし安定期に入ってきたいま、それは「独り走り」になりかねない。組織としてマネジメント体制を確立させ、会員がより活動しやすい環境づくりが、今後の組織発展・防災力向上には不可欠ではないだろうか。

## 企画の趣旨

### 脱！会員の“実務 幹部頼り”

効果的かつ円滑な組織運営には、「幹部はマネジメント、会員は実務」の役割分担が必要であろう。一定規模を超える組織では、幹部が実務を自らの手元にホールドという状況は、組織の体が崩れることに繋がりがねない。実務を会員に任せることで、会員に役割を与え、組織の一員としての自覚を持たせるとともに、会員のスキルを育てることが、これからの組織育成の第一歩だと考えた。



## 1人で講演会を任せることができるような人材を育成する

一言でいえば、「幹部が“信頼できる部下”を多く養成する」ということが、本企画の趣旨である。「仕事をホールドせず会員に割り振れ」と言われても、部下に仕事を任せるに足る実力がなければ、結局一部の幹部や会員で仕事を捌くことになってしまう。会員としても、自分には釣り合わないと感じるような大きい仕事を任されても頭を抱えるし、かといって何も任されないと、支部の会員である意味が損なわれる。その状況を打開することが、本企画の目的である。

# 企画の内容「4つのステップ」

## STEP 1

### 現時点での実力者を招集する

これまでに業界での活動や経験が豊富な人材を、今後の会員育成に携わる中心メンバーとして招集する。招集されたメンバーで、会員が参加しやすく、意欲が引き立てられるような教育プログラムを設計する。

## STEP 2

### 教育プログラムを展開する

集合研修やオンライン研修、ワークショップなどを活用し、月1回程度のスキルアップの場を設ける。研修は受講者参加型を多く採用し、主体的な学習を通じて実力を醸成する。

## STEP 3

### 模擬講演会を開催する

テーマを決め、5～10分程度の模擬講演会を実施する。喋ることに自信のない方、まだ実力が十分でないと感じている方も、補助スタッフなどとして積極的に参加を促し、指導者は「傾聴すること」と「褒めること」を徹底し、意欲を損なわない指導を心がける。

## STEP 4

### 順次、支部の講演等派遣要員としてデビュー

プログラムの過程でみつけた自身の得意分野や専門分野について、講演会や研修会、ワークショップ等の指導者として、各地へ派遣する。  
また、支部としても積極的にイベントを主催し、支部YouTubeチャンネルでの講演会等でも講師に起用する。

# STEP 1

## 現時点での実力者を招集する

これまでに業界での活動や経験が豊富な人材を、今後の会員育成に携わる中心メンバーとして招集する。招集されたメンバーで、会員が参加しやすく、意欲が引き立てられるような教育プログラムを設計する。



時期：今年度(2024年度)中

内容：指導する内容・担当などの役割を決め、プログラムの計画を立てる。

予算：打ち合わせ会場費など

## STEP 2

## 教育プログラムを展開する

集合研修やオンライン研修、ワークショップなどを活用し、月1回程度のスキルアップの場を設ける。研修は受講者参加型を多く採用し、主体的な学習を通じて実力を醸成する。



時期：来年度(2025年度)1年間

内容：各担当講師によるプログラム  
毎回幹部とのリフレクションを行い、  
次回以降の内容向上を図る。

予算：会場費・教材費・外部講師(あれば)など

## STEP 3

### 模擬講演会を開催する

テーマを決め、5～10分程度の模擬講演会を実施する。喋ることに自信のない方、まだ実力が十分でないと感じている方も、補助スタッフなどとして積極的に参加を促し、指導者は「傾聴すること」と「褒めること」を徹底し、意欲を損なわない指導を心がける。



時期：2026年～

内容：より実践的な形での経験を積む場とし、演壇に会員が立つ。

短時間のスピーチを行い、指導者は傾聴し、褒め、必要に応じて指導し、改善を図る。

予算：会場費など

## STEP 4

### 順次、支部の講演等派遣要員としてデビュー

プログラムの過程でみつけた自身の得意分野や専門分野について、講演会や研修会、ワークショップ等の指導者として、各地へ派遣する。

また、支部としても積極的にイベントを主催し、支部YouTubeチャンネルでの講演会等でも講師に起用する。



時期：2026年～

内容：支部主催の行事や依頼を受けた行事等で講師を務める。

今回、他の防災士から出た企画での講師にも、積極的に起用してはどうか。

予算：会場費など

収益：講演参加料など



ただし…

### **「単独講演の日常業務化」は“目的”ではない**

ただ、タイトルにある「防災士の単独講演を日常化できるように」することは、あくまでも暫定の目標であって、それ自体が目的であるわけではない。一旦の目標を「支部として、幹部が会員に単独講演を任せることができるような体制を構築することとし、それを通過点として、その過程で培った力を今後の業務に活かしたい。本企画は、防災士の単独講演を日常業務化するまでの内部研修や模擬講演会などの過程を通じて、支部としてのマネジメント能力・防災の指導力を向上させていくことが狙いである。

### **結果的に講演ができなくてもOK**

万一講演の実施にまでたどり着くことができなかつたとしても、先述の通りこの企画はそれまでのプロセスにこそ意義がある。会員としても、幹部が会員に歩み寄る姿勢を感じたり、今後の活動にとって有意義な情報を学べたりすること自体が、今後の支部の発展に繋がると確信している。得られるメリットに対する支出も非常に少なく、ぜひ実践したい企画である。



**日本防災士会**  
**京都府支部**